

城のある都市復活

# 福岡城だより

2019.春  
SPRING  
No.61



2017 福岡城彩発見フォトコンテスト入選作品 「ファミリー」 河村 稔様



都会の「窯元」としての  
存在価値を求めて

筑前黒田藩御用窯元本家高取

15代 龜井味楽

高取焼の変遷を辿ると非常に複雑で未だに解き明かされていない未知な部分が多い。  
1606年直方で開窯し、飯

高取の地に根を下ろして300年の歳月が流れた。その間この地も発展を遂げ今では高級住宅街となってしまった。市の条例により「登り窯」を焚くことも今や困難である。この登り窯の基礎は1700年代の物。明治時代に基礎を生かしたまま上間だけを焼き直したと先代父より聞かされている。窯元を訪れた多くの有識者そして一般市民の方々は「文化財」の価値があると口を揃えて言われる。この地を手放し田舎で作陶する事は容易であるが、やはり先祖代々引き継がれてきたこの地で作陶を続ける事が私15代の使命であろうと痛感している今日この頃である。「高取焼」と名乗る窯元は多く存在するが途絶えることなく400もの間、綿々と続いてきている窯元は我が「味楽窯」一軒である。その歴史の重さに押し潰されそうになる事も多々あつたが、16代継承者である息子久彰の為にもこの地で「都會の窯元」としての存在価値を行政の助言も頂きながら確立していくたいと思う。都會のど真ん中に存在する登り窯。この様な景観は日本全国探しても中々無いであろう。「窯元」と言えば山奥の田舎を想像するが交通の便が悪いことも否めない。この高取焼の地の立地条件を考えると都心から市営地下鉄を使い15分、こんなアクセスの良い窯元も珍しいであろう。「都會の窯元」として最高に恵まれた環境である。今後は福岡市が力を入れている観光に於いても、伝統文化に強い関心を持つ外国の方々に足を運んで頂くよう尽力し地域の活性化にも繋がるよう努力をして参りたいと思う。

福岡城市民の会会員 室川 康男

在りし日の福岡城、その建物の姿は古写真や現存している櫓、門から推察されます。その特徴としては、白漆喰塗りの外壁。木製化粧仕上げの軒裏とその鼻隠し板。軒先の木製方杖と出桁（だしげた）や、軒下の雨がかかる外壁腰部分の（漆喰壁より耐候性のある）下見板張り腰壁に柿渋に墨を混ぜて塗った焦げ茶色。そして白漆喰塗りの張り出し格子窓などです。このように用と美を兼ね備えた外観は白色と焦げ茶色（黒色）のシンプルな二色のみで全体は構成されています。質素儉約を重んじた黒田家の精神性を形にすることで、黒田長政と文化人でクリスチャンでもあった父如水との感性のもとに禁欲的なまでにデザインされ、その格調の高い均整のとれたエレベーションは石垣と美しく調和して、別名舞鶴城と呼ばれて当時はその端正な姿を誇っていたことでしょう。

## 【本丸表御門】



家臣登城の情景

室川康男 画

の八つ下がり」といって、朝、四つから4時間働いて八つ（午後2時頃）には太鼓合図とともに退城します。登城日は「三日勤め」と言い、二日勤めて一日休み。かつ一日4時間労働とは、お城勤めは楽のように見えますが、退城してからは城下で町奉行や寺子屋の仕事など遅くまで働いていました。お侍も結構忙しかったようです。

登城ルートは、それぞれ城内の家老屋敷から、東御門～二の丸～扇坂御門を経由して、または松木坂御門を経由して表御門を潜り、大石段を登って本丸に登城します。また城下からは上中級家臣が上ノ橋御門、下ノ橋御門～東御門を経由して登城します。本丸表御門は城主と家臣や賓客の登城のためにもっぱら使われていました。

表御門は明治42年消印の絵葉書でわかるように櫓門です。2階の窓は突き上げ窓で、内側に漆喰塗りの格子窓がついていました。いざという時はここからも鉄砲、弓矢で攻撃ができるようになっています。二の丸は今は梅林となっていて、早春には紅白の梅の甘い香りがあたり一面に漂っています。往時の二の丸御殿でも籠城時の備えとして梅（梅干し用）が植えられ、甘い梅香の風が吹いていたことでしょう。

なお表御門は大正7年（1918）に崇福寺（博多区千代町）の山門として改造移築され、県の文化財として保存されています。



二の丸梅林から見た表御門跡の石垣



古写真（時櫓の石垣の向こうに表御門）



多聞櫓



武具櫓（黒田別邸に移築後の古写真）

朝四つ（午前10時頃）、本丸表御門では時打櫓で連打する太鼓の開門合図の中、正装の家臣たちが続々と登城していきます。何やら仕事の話や、噂話など情報交換をしながら門をくぐっていきます。東御門は西向きに造られ、家臣は門を潜って朝日に向かって大階段を登って、いつも清々しく登城するように構えられています。

本丸御殿では中でも役方（事務畠）につく侍は主に行政、司法、財政など、お役所仕事に従事していました。城勤めは「四つ上がり

崇福寺山門



## 第一回 「金子堅太郎」

福岡市民の会ガイド 隈本 泰幸



明治維新に福岡出身の人物はないと言いますが、それは本当にどうか。最後の殿様と呼ばれる黒田長溥公自身も乙丑の獄で優秀な人材を失ったことを悔やんでいたと言われています。しかし明治中期、政府や経済界で活躍した綺羅星のごとく多士済々な人たちがいました。彼らの多くは長溥公が黒田藩の英才達を海外に留学させた人物達です。今回シリーズとしてその人物たちを紹介したいと思います。

堅太郎には大きな功績が二つあります。一つは伊藤博文のもと大日本帝国憲法を起草したことです。井上毅、伊藤巳代治と堅太郎の3名が憲法起草委員でした。その後も伊藤内閣で農商務大臣、司法大臣を歴任しました。

二つめは日露戦争での活躍です。日本は日本海海戦に勝利したものの国費が底をつき戦争継続が困難でした。ロシアも革命運動の国内問題をかかえていました。その時、渡米した堅太郎は友人のセオドア・ルーズベルト大統領を動かし、アメ

金子堅太郎は嘉永6年（1853）鳥飼村に生まれ、足軽の身分でしたが幼いときから秀才で正木昌陽塾で学び9歳で藩校修猷館に入学、後に秋月の稽古館、東京の昌平学校で学んでいます。

明治4年、黒田長知公が岩倉使節団に加わる時、随行員として長溥公が選んだのが元藩士金子堅太郎と園琢磨の2名で、堅太郎19歳の時です。堅太郎は終生「自分の今日があるのは長溥公のお陰」と感謝していました。堅太郎はハーバード大学で法律・憲法・国際法を専攻し、優秀な成績を修めました。同級生に後の第26代アメリカ大統領になるセオドア・ルーズベルトがいました。

堅太郎には大きな功績が二つあります。

一つは伊藤博文のもと大日本帝国憲法を起草したことです。井上毅、伊藤巳代治と堅太郎の3名が憲法起草委員でした。その後も伊藤内閣で農商務大臣、司法大臣を歴任しました。

二つめは日露戦争での活躍です。日本は日本海海戦に勝利したものの国費が底をつき戦争継続が困難でした。ロシアも革命運動の国内問題をかかえていました。その時、渡米した堅太郎は友人のセオドア・ルーズベルト大統領を動かし、アメ



博多どんたくは「松囃子」を起源とする840余年の歴史があります。江戸時代では、博多商人たちが年に一度、正月行事のお祝いとして「松囃子」を立てて、福岡城内に入り藩主に表敬をおこなっていました。

今年も福岡城内（西広場）に福岡城演舞台を設置します。4日には一六代当主黒田長高様をお迎えして、稚児舞（宮崎県出身）で、実は彼もハーバード大学の同窓でした。

堅太郎の福岡愛も大変なもので、修猷館の復興、官営八幡製鉄所の建設、九州大学の誘致に尽力しています。晩年は修猷館に来て講演するのが好きだったよう

で帝国憲法起草や日露戦争の話を後輩にしたそうです。

最後におもしろいエピソードを紹介します。留学時代、友人の伊沢修二（後の東京音楽学校校長）と電話を発明したベルを訪ねたそうです、ベルは喜んで電話実験に二人を参加させました。伊沢は信州人だったので、世界で初めて電話で外國語を話されたのは日本語で、それも博多弁と信州弁の会話だったという説があります。

金子堅太郎は昭和17年5月16日永眠、89歳の人生でした。

西広場では食のイベント「超カレーフランプリ」も開催されます。ふるって遊びにお越しください。

## 福岡城演舞台の主なスケジュール

5月3日

午前・市民どんたく隊演技

午後・高校生・大学生によるダンスステージ

午前・黒田藩傳柳生新影流四方祓い稚児流れ（稚児舞）子どもにわかれ

午後・下之橋御門にてお迎え

午後・大学生によるダンスステージ

午後・キッズ・ジニアのステージ

午後・大學生によるダンスステージ

午後・キッズ・ジニアのステージ

第58回

福岡市民の祭り

博多どんたく

港まつり

# 第1回福岡城・城下町フォトコンテスト

## 第12期 福岡歴史観光市民大学

### 受講者募集!

第12期(2019年度)の福岡歴史観光市民大学は、受講者の募集を開始しました。

幅広いテーマと一流の講師陣で、毎年多くの方々に好評の講座です。

講座期間: 7/1 (月) ~ 11/18(月) の毎週月曜日10時~12時  
(8/12を除く。祝日にあたる場合は、火曜日)

受講料: 13,000円 (市民の会会員は11,000円)

募集期間: 6/20まで。先着120名の定員に達した場合は、  
その時点で締切り。

予定されている講義テーマと講師(敬称略)は次の通り。

回	講義テーマ	講師
①	アジアの中の港市・中世博多	伊藤 幸司
②	博多祇園山笠 伝統と明日	松尾 孝司
③	筑前琵琶で語る九州戦国史	寺田 蝶美
④	宗像族と阿曇族	西谷 正
⑤	九州の近代化産業遺産	有馬 学
⑥	九州の陶磁器	鈴田由紀夫
⑦	邪馬台国論争の行方	榎原 英夫
⑧	福岡の黄檗宗寺院・千眼寺の歴史と文化財	楠井 隆志
⑨	観光客お国事情	千 相哲
⑩	古代の街道をゆく―ローマ街道・秦直道から古代官道まで	石井 幸孝
⑪	筑後国一宮 高良大社	竹間 宗磨
⑫	福岡における装飾古墳の世界	吉村 靖徳
⑬	福岡(博多)の行事食	松隈 紀生
⑭	明治期東京で活躍した福岡人	石瀧 豊美
⑮	天神さまの美術	森實久美子
⑯	仙崖 -無法の禅画-	中山喜一郎
⑰	福岡藩の支配制度	田坂 大藏
⑱	考古学から見た朝鮮半島と九州の関係	白井 克也
⑲	能楽と大名	塩津 圭介
⑳	曼荼羅	錦織 亮介

全20回のコースで、単日参加はお受けできません。興味のある方は、市民の会事務局(電話092-716-8238)に詳細をお尋ねください。

歴史・自然・文化など生活を彩ってきた福岡城とその城下町の魅力を再発見する「福岡城・城下町フォトコンテスト」(主催: 同実行委員会)の審査が4月3日行われ、受賞作品が決まりました。13日には、大央ホールで表彰式が行われ、その後1週間、入賞・入選作品19点が同ホールで一般市民の方々に公開されました。第1回目のこのコンテストには、舞鶴公園や大濠公園の中撮影された彩り鮮やかな写真や、確かに城下町の趣を発見していると感じさせる写真など、秀作が寄せられました。受賞作品は、実行委員会のHP(https://www.tci-photocon.com/)などでアップされています。

受賞者は、次の皆さんです。(敬称略) おめでとうございます。

**A 福岡城「彩」発見部門 大賞**  
平井 精一「緑のサンクチュアリ」

**B 城下町「再」発見部門 大賞**  
永沼 あまね「後光」

**特別賞 大央賞**  
小山 聖月「鮮やかなメッセージ」

入賞 / 濱咲 誠、後生川 東志海  
平田 俊、藤島 正穂、高鷹 春一  
津田 博文、田口 由美子  
入選 / 福澤 歩実、橋野 芳治、谷中 博文  
小川 衣里、甲斐 満男、河津 一郎  
高尾 昌之、浪瀬 彩加



## 2019年度 福岡市民の会歴史探訪バスツアー 訪ねる!

©2018玉名市・利水町・南関町三丁目42

コース	定員	食事	参加費	出発日
天神(8時) / 基山PA / 南関IC / 大津山城跡(車窓) / 金栗四三生家 / 田中城跡(車窓) / 金栗四三ミュージアム / (昼食) / 金葉四三住家資料館 / いだん大河ドラマ館 / 道の駅さくすい	30名	昼食1回(玉名市 ホテルしらさぎ)	11,000円	6月1日(土曜日) 8時 天神日銀横(受付: 7時40分より)



福岡市民の会バスツアー担当 野田弘信  
申込及びお問合せ (株)西日本新聞旅行担当 岡崎  
TEL: 092-711-5518 FAX: 092-711-1969

福岡市民の会の会員を随時募集しています。

年4回発行の「福岡城だより」を始め、歴史観光市民大学の講義・福岡城内のガイドツアー・や勉強会などで、福岡の歴史・郷土愛をご一緒に深めてみませんか。ご入会お待ち申し上げます。

### 新規会員募集

春号から4回シリーズで、意外と知られていない明治維新後の福岡藩士達の活動を掲載していきます。こんな方が身近に・・と新しい発見をお楽しみください。今回の表紙は福岡城東御門の石垣を背景に撮られています。福岡城内の敷地に残っている多くの石垣と桜、春爛漫の季節です。ソメイヨシノから枝垂桜、八重桜、藤菖蒲と次々に見頃を迎えます。歴史の詰まつた福岡城内をお花と共に散策してはいかがですか。

#### 編集・発行

#### NPO法人: 福岡市民の会

〒810-0042  
福岡市中央区赤坂1-12-15  
読売福岡ビル7階  
TEL 092-716-8238  
FAX 092-716-8254

[HPアドレス]  
<http://fukuokajokorokan.info>  
[E-mail]  
[staff@fukuokajokorokan.info](mailto:staff@fukuokajokorokan.info)  
[デザイン・印刷] 城島印刷株式会社

福岡市民の会

検索